



ばらぐみだより



R6. 9. 1 発行

日中は夏と変わらない暑い日が続きますが、日が落ちるのが少しずつ早くなってきました。先月は、保育者の話を聞いて行動をするということを目指して生活をしていきました。集まりなどで保育者が話している時は保育者の方を見て話を聞くように声を掛けていきました。3歳児の記憶の発達では、3つから4つの事を覚えることができると言われていています。ばら組での集まりでも3つまでの話をトイレに行ったり手を洗いに行っています。例えば、イチゴグループさんは①トイレに行く②お茶を飲む③終わったら絵本を読んで待つ等です。保育者が話し終わった後は、子ども達が理解をしているか何人かに聞いてから次の行動に移しています。しかし、子ども達に聞いてみると前を向いて聞いているようでも実際は話を聞いておらず、適当な事を言ったり、黙り込んでしまう子もいます。すぐに答えを出すのではなく自分で考えられるように声を掛けたり、分からない子には再度、保育者が話をして繰り返しやる事を声に出すことで覚えられる場合もあります。最近はずっと全体で話を聞いて行動をする事ができる子も多くなっていますが、まだまだ個人差があります。9月は運動会の練習でかけっこの並び順や遊戯の踊りを覚えたりしていきます。子ども達が覚えやすいように丁寧に話をしていきたいと思ひます。子ども自身も話を聞いていけるようにご家庭でも人の方を向いて話を聞けることを繰り返し伝えていただけたらと思ひます。

《今月のねらい》 ・全身を使って遊ぶ。(踊る・走る)

《今月の活動予定》 ・散歩・リズム遊び・サーキット運動遊び・製作(折り紙、はさみ)
・体操・かけっこ等



色々な事にチャレンジしていこう!

3歳児の年間目標は「自分でやろうとする力を育てる」、そして今年度の保育テーマは「笑いあう」です。ばら組では生活や遊びの中で失敗を恐れずに色々な事にチャレンジをしてほしいという思いから今年度は運動会や発表会で、小学館から出版されている鈴木 のりたけさん作の「大ピンチずかん」という絵本を基に表現をしていきます。内容は、実際に日常で起こるピンチをコミカルに描いているような内容です。ばら組の子達とこんな時はどんな風ふうに対処するか一緒に考えながら笑って見えています。ばら組の日常の中にもピンチは沢山潜んでいます。遊んでいる中で楽しくなりすぎてしまい友だちと絵本を取り合い破けてしまう、水道で水遊びをして思わず水を出し過ぎてびしょ濡れ、そこを保育者に見つかりピンチ等…。まだまだ日常にはピンチは沢山潜んでいます。でもピンチはチャンス、失敗は成功のもとです。こんな時はどうすれば良かったのか日々ピンチを解決する方法やピンチにならない方法を子どもたちと考えています。子どもがピンチを解決していく日常の姿を表現していきたいと思ひています。ぜひ本をお手に取ってご覧ください。